

成蹊学園



vol.70

SEIKEI GAKUEN 広報

2008 Summer



Contents

- 2 創立100周年記念事業 国際教育センター
- 4 桃李の人々(三田 敏雄)
- 7 成蹊教育のいま(竹内 敬子)
- 8 大学の近況
- 10 中学・高等学校の近況
- 12 小学校の近況
- 14 2007年度決算および事業報告
- 18 2009年度入学試験日程
- 19 学園トピックス
- 20 成蹊教育を知る

現状に満足せずに
「ベター・ザン・ベスト(超最良)」を
常に目指したい

三田 敏雄

中部電力株式会社・代表取締役社長

インタビュー
桃李の
人々



国際理解を深め、
真の国際人育成を目指して

創立100周年記念事業 国際教育センターの役割

蹊

○

Series 成蹊教育を知る。

個性尊重の少人数教育

成蹊学園創立者中村春二は、自身の教育についての考えを、「教育図解」という十二枚の図付の文書で解説しています。先にあげた言葉はその中の一枚で語られている内容です。

ここでの七、八十は当時の小学校、五十は当時の中学校の学級定員数を示しています。明治五年の学制に始まる学校制度は、三十年代になり近代的な学校制度として確立しましたが、小学校や中学校では、決められた教材を二斉授業の方式で行うものでした。そんななか、中村は個性尊重の少人数教育の重要性をくり返し述べています。

口の大きなコップは、水を入れることはたやすいが、こぼれやすい。口の小さなコップは、水を入れるのに時間はかかるが、こぼれにくい。大小さまざまなコップ七、八十個や五十個に二人で水をつこうとすると、コップの大きさにより注ぎ方をかえることができない。教育もまた同じで、理解が早く忘れやすい生徒、理解は遅いが忘れにくい生徒、それぞれ異なる個性を持つ子どもに、それぞれの個性を考えた教育をするためには、教師が一人ひとりに相対することのできる環境が必要である、と中村は唱えました。「個性尊重

～コップの中をみよ～



「教育図解」1917(大正6)年発行

のための少人数教育」それは成蹊学園が創立以来絶やすことなく守り続けてきた創立者の理念です。
二〇〇八年、段階的に行ってきた成蹊小学校二十八人四学級制が完成しました。創立の理念を今に受け継ぎ、異なる個性を生かすことのできる教育を、今後も成蹊学園は目指していきます。

コップの形の異なるは生徒の個性の異なるを示せしもの。Xの如きは教へ易くして忘れ易きもの。Yの如きは教へにくく、して教へこみさへすれば容易に忘れぬもの。このコップを七八十個(小学)や五十個(中学)一人に一つづきとするとするは大に考ふるべき事なり。即ち個性によりつぎ方を種々適当に変ずる事不可能なればなり。かゝる教育法にてはYの如き生徒は學術劣等児として取り扱はれ一生を誤るべし。



成蹊学園広報

2008年7月10日 発行

学校法人 成蹊学園総務部広報課

東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 (0422) 37-3517

URL <http://www.seikei.ac.jp> e-mail koho@jim.seikei.ac.jp



在学生の声

国際教育センターでは、国際性に富んだ活動を積極的に行った在校生を表彰しています。国際交流賞を受賞した夏井さんの活動を紹介します。



文学部現代社会学科 夏井 佑来さん

2005年6月、パヤタスでボランティア活動をしている友人をたずね、初めてフィリピンを訪れました。パヤタスにはゴミが積まれて山のようにになっている「スモークマウンテン」があります。不衛生で悲惨な状況を目の当たりにし、「地球の中にこんなところがあるんだ」と思う反面、交流していた子どもたちがそんな状況にも関わらず元気に明るく遊んでいるということに衝撃を受けました。子どもたちの中にはゴミを拾って生計をたてている家庭もあります。言葉では言い表すことができないほどの異臭や貧困のなか、それでも明るく遊ぶ子どもたちにたくましさを感じ、自分に何かできることはないかと強く思いました。外の世界を知らなかった自分が受けた衝撃を子どもたちにも知ってほしい、日本とフィリピンの交流の架け橋になり



たい、そう思い母校の小学校を訪れました。いくつかの提案の中から、2国の子どもたちに「家族」という同じテーマで絵を描いてもらい、それを交換することになりました。「家族」をテーマに選んだのは大家族が多いフィリピンと、核家族化が進む日本とでは、双方の子どもが描く絵に大きな違いが出るはずだと思ったからです。日本とフィリピンで多くの方々の協力を得、子どもたちの交流が実現しました。絵の交換を通じ、子どもたちは互いの異なる文化に対して疑問や質問を抱き、手紙の交換にまで発展しました。

この活動を通して、フィリピンの人たちの明るさ、日本の先生方の温かさ、子どもたちの創造力など、たくさんのことを学びました。また、今回国際教育センターの交流賞を受賞したことで、自分の取り組みを知ってもらい、今度は成蹊小学校の全校生徒に向けてフィリピンの子どもたちとの交流について話す機会を得ました。自分の活動がさまざまな形に発展できたのは、多くの人たちの支えがあつてのものだと思います。人との出会いがこんなに大切な、今回学んだことも大きなことです。



9月には、国際教育センターの留学制度を利用して、ワシントンセメスタープログラム生としてアメリカン大学に長期留学します。大学の講義とインターンシップを行うプログラムで、国際支援や環境についてNGO団体に所属しながら学ぶ予定です。将来の目標は子どもが暮らしやすい、環境づくりに携わること。どのような形で将来かわっていくかはわかりませんが、そのための知識、力を身につけたいと思っています。

創立100周年記念事業

国際理解を深め、 真の国際人育成を目指して



国際教育センター

成蹊学園の小学校から大学までの各設置校、大学においては4つの学部・学部の垣根を越えて、児童・生徒・学生の豊かな国際性を育てていくことを目的として、2004年に国際教育センターはスタートしました。ここでは、「教育」「研究」「交流」それぞれのテーマにおける国際教育センターの最近の取り組みについてご紹介します。

ワンキャンパスのメリットを生かした国際教育を推進します



国際教育センター所長
井上 智夫

国際教育センターは、成蹊学園が設置する各校に集う児童・生徒・学生の国際理解教育の促進を担い、またコミュニケーションツールとしての英語教育を推進する組織として設立されました。独自の教育方法を考え、その効果を検証し、また留学制度や国際理解を深める活動を奨励する賞を設けるなど、包括的な国際教育に取り組んでいます。例えばこれまで、平易な単語で書かれた英文を大量に読破することで語彙力や文書理解力を培う「Extensive Reading」(主に大学生対象)や、絵本にある情景を考えながら短い英文を声に出して読むことで英語を身近なものにする「Read Aloud」(主に小学校低・中学年対象)といった学習法を提供してきました。現在、小学校高学年を対象とした新たな学習法の検討を始めています。今後も、幅広い年齢の若者が学ぶ成蹊学園の特性を生かした効果的な教育方法を模索していきたいと思っています。成蹊学園が置かれたワンキャンパスという環境は、人と情報の交流を活発化させる恵まれた環境です。センターはこの環境を生かし、小中高大で情報を共有することで、活動の幅に相乗効果を生み出すことを目指しています。昨年の例では、ある国際問題を研究した大学生による小学生向けの授業の実施、ペンブルック劇団来日時の高校生と大学生による事前学習への参加、また海外からの協定留学生(大学生)と小学生との交流など、年々、各校の垣根を越えて活動の幅を広げています。

研究

国際教育センターの取り組み 2

効果的な英語教育法の 追求を重ね、実践します

グローバルに「使える英語」を身につけることが世界的に通用するコミュニケーションレベルを上げる第一歩であることは、もはや論を待ちません。国際教育センターでは、センターに所属する常勤講師を中心に、英語教育に関する教材開発および教育方法の開発・普及につとめ、共同研究プロジェクトの形でこれらに係る研究活動に取り組んでいます。二〇〇六年より「国際化教育の効果的推進に関する学際的研究」/多読、多聴教育への多面的アプローチ」をテーマにスタートした共同研究も二〇〇八年度がその成果発表を迎える節目の年度となり、最終的な成果発表に先立ち、本年五月二十七日に中間成果発表報告を行いました。当日は、国際教育センター所員のみならず英語教育に高い関心を持つ大学教員や中学・高等学校教諭などが集まり、英語教授法についての熱心なディスカッションが繰り広げられました。このディスカッションで得られた意見も取り入れながら、本研究プロジェクトの最終的な研究成果が今年度末に報告書として発表される予定です。



5月に行われた中間成果発表報告



研究成果をまとめたワーキングペーパー

教育

国際教育センターの取り組み 1

さまざまな国の英語、文化、 歴史が学びの対象です

真に世界で通用する国際人を養成するための国際理解教育を推進することは、国際教育センターの大きな役割のひとつです。例えば、国際教育センターが大学にて開講している二〇〇八年度の国際コース科目「World Englishes」では、アメリカ英語・イギリス英語のみを英語の基準として考えることなく、さまざまな国における英語の特徴や各国の文化事情を、言語的な視点に留まらずに、歴史的、文化的な観点も交えて概観することに挑戦しています。また各国の言語政策・英語教育のあり方にも着目し、日本での課題は何かを考えたもらいます。その際、可能な限り地域別にゲストスピーカーを数人迎え、生の交流を体験してもらいう機会としています。



ゲストスピーカーを迎えての授業

交流

国際教育センターの取り組み 3

イギリス・ケンブリッジ大学 との積極的な交流

実際に異なる歴史的背景、習慣、文化を持つ人々との交流の機会を持ち、そこから机上の学習では掴むことができない「何か」を感じ取れることを国際教育センターは大事にしたいと考えています。昨年に引き続き、今年度も九月にイギリスのケンブリッジ大学よりペンブルック劇団を招待し、シェイクスピア劇「真夏の夜の夢」を上演していただく予定です。上演の前夜には、生徒・学生を中心に、ペンブルックカレッジの学生とのふれあいを通じて、その歴史的な背景や文化を学びとるワークショップやレセプションを開催し、小学校から大学まで、ひいては地域住民を含めた国際教育センターならではの交流イベントとしたいと考えています。

2007年には「ロミオとジュリエット」が上演されました



ペンブルック劇団によるシェイクスピア劇



上演前のワークショップ



インタビュー 桃李の人々 vol.18 卒業生ロングインタビュー

父の「遺志」を受けて
成蹊大学への進学を決意

— 成蹊大学工学部機械工学科に入学されたきっかけは何だったのでしょうか。

三田 子どもの頃から、機械工学科に進もうと決めていました。父が電気系のエンジニアで、科学技術に関する話を聞きながら育ったためかもしれません。当時は、電気工学よりも、機械工学の方が応用範囲が広いと言われていましたので、自分は機械系のエンジニアを目指そうという意識を、かなり早くから持っていました。

— モノづくりに興味があったのですか。

三田 モノづくりに関心がありましたが、それ以上に得意だったのが数学で、

— 戦績はどうだったのですか。

三田 アメフトは、強豪校の場合、攻守で選手が入れ替わるのが一般的ですが、部員が十四名しかいなかったで、その余裕がありません。私はオフエンスではセンター、ディフェンスの時はラインバックカーを務め、ずっと出ずっぱりでした。

それでも、オールジャパンの選手にも選ばれた細谷英樹監督のもと、ハードな練習を積んでいましたから、めきめき実力をつけていきました。リーグ戦の三部、二部を無敗で勝ち上がり、三年生の時には、一部への昇格をかけて、東大との入れ替え戦に臨みました。この試合のことは、今でも忘れることができません。というのも、前半に大量リードをしていたにもかかわらず、後半に大逆転負けを喫したからです。しかも、終了直前のラストワンプレイで試合を引つ繰り返されてしまいました。号泣する私たちに、細谷監督は「君たちは相手なめてかかっていた。その奢りが敗戦の原因だ」と叱咤されました。その言葉に私ははっとしました。確かに自分たちは自惚れていた。春のオープン戦で一部のチームと対等に戦っていましたし、二部では無敗。昇格するのは当たり前、負けるはずがないという奢りがあったことに気づいたのです。いい経験をしたと思っています。

卒業研究の雪上車の制作で
キャタピラの設計を担当

— 印象に残っている先生はいらっしゃいますか。

中部電力株式会社 代表取締役社長

三田 敏雄

Toshio Mita

社会基盤を担う電力業界のトップとして活躍されているのが、中部電力社長の三田敏雄さん。ベストよりさらに上を目指す「ベター・ザン・ベスト」の信念を持って、日々の業務に携わっていらっしゃいます。成蹊大学時代の思い出と、後輩たちに向けての熱いメッセージを語っていただきました。

現状に満足してしまうと

組織も技術も停滞する

「ベター・ザン・ベスト」の精神で

常に改善を目指す熱い心を持ち続けたい

とくに幾何学が大好きでした。幾何学は理屈で解くものでなく、ひらめきが重要です。問題に集中して考えていくと、ふっと発想が浮かぶ。その瞬間がとても楽しかったのです。一方で、国語、英語は記憶の学問であり、努力を継続しないと身につけませんから、苦手でした。今でもあまり好きではありません(笑)。完全な理系人間だったわけで、必然的に理系学部に進むことになりました。

成蹊大学を選んだのは、父の強い勧めがあったためです。当時の工学科長は福田節雄先生で、父から「福田先生のような優秀な研究者が教える大学なら、絶対間違いない」と推奨されました。少人数の教育体制も気に入ったようで「技術者はモノに触りながら学ばなければ、本物の実力は修得できない。マスプロ型の大に進むよりも、実験装置が必ず一人ひとりの手に行き届く大学の方がいい」と言われました。

実は、父は受験の一月ほど前に亡くなりました。ですから、どの大学を受験するかといった相談は病床で行われたのも中心となって、雪上車を製作する研究が行われていました。車体、構造力学、振動力学、流体力学、エンジン、内燃機関など、複数の研究室による共同研究で、流体力学研究室に所属していた私も、この研究に参加しました。

私たちのグループが担当したのは、キャタピラの設計です。雪道でスビードを出しても滑りにくくするためには、剪断面積を大きくすることが重要になります。当時は、安価で簡単に作れるため、四角形のキャタピラが主流でしたが、雪上車には適しません。そこで、さまざまな検討を重ねた結果、私たちは、正三角形のキャタピラを開発することにしました。これは画期的なことだったと自負しています。

この研究の過程で、三菱自動車と交渉してエンジンを譲り受けたり、錦糸町の

のです。その意味では、私が成蹊大学に入学したことは、父の遺志だったと言ってもいいでしょう。

アメフト部に所属

入れ替え戦の敗戦が忘れられない

— 大学時代の思い出をお聞かせください。

三田 高校の時はラグビー部だったので、成蹊のラグビー部は強豪なので、とてもついていけないと断念し、最初は工学部のサッカー部に入学しました。けれども、一年生の六月頃、新たにアメリカンフットボール部を発足させようという話が持ち上がりました。「体育会ではなく、同好会レベルだから、楽しみながらプレーできるよ」という友人の誘い文句に乗って、入部することになりました。ところが、いざ入ってみると、まったく話が違い、練習は体育会並みのハードさでした。夏の終わり頃から練習がスタートしたのですが、月曜日以外は毎日練習で、土日も休まずグラウンドで汗を流していました。

部品店でギアボックスなどを購入したり、設計したキャタピラの製作を日立市にある製作所に発注したり、貴重な体験を得ることができました。その甲斐あって、完成した雪上車は、志賀高原で行われた試走で抜群の機能を発揮しました。スノーモービルが発売された頃だったので、新雪が七十センチほど積もると、もうスノーモービルは走行不可能です。それに対して、私たちの雪上車は、そんな雪の上でもスムーズに走ることができました。もっとも、構造研究のための実験車両ですから、デザイン性は無視であり、見た目は不格好なものでしたが(笑)。

技術者は自然に対する

畏敬の念を持つことが重要

— 電力会社を選ばれたのは、どのような考えからですか。

三田 最大の理由は、地元に戻って就職したいという思いがあったからです。また、電力事業は生活や産業、もったいねば国家の基盤になるものです。そんな公益的な事業に携わること、技術者として社会に貢献できるところにも魅力を感じました。

— 成蹊大学での学びが、現在の仕事に生かされていると感じられることはありますか。

三田 大学で熱力学、流体力学など、多様な学問を学ぶ中で痛感したのは、自然





東京大学経済学部卒業。東京大学大学院経済学研究科第二種博士課程単位取得満期退学、1985年より1988年まで全国電気通信労働組合中央本部政策調査室。1988年より現職。マンチェスター大学大学院人文研究科（School of Arts）でMPhil、2007年マンチェスター大学大学院人文・歴史・文化研究科（School of Arts, Histories and Cultures）でPh.D（博士号）を取得。現在イギリス女性史研究会副代表を務めている。

早いもので、成蹊大学文学部に勤務して二十一年目になろうとしています。成蹊大学は私が初めて勤務した大学で、私は研究者としても教育者としても、ここで育てていただいたと思っています。現在は、「イギリスの歴史と文化」「女性・男性・ジェンダー」などの講義科目のほか、一・三・四年の演習、大学院の演習を担当しています。文学部は卒論指導をとっても重視しています。卒論指導は大変に骨の折れる仕事ですが、やりがいがあります。学生たちは毎年さまざまなテーマに取り組んでいます。旧東ドイツの女性団体を取り上げ、その団体に手紙を書いて送ってもらったダンボール箱一箱分のドイツ語の資料を使って卒論を書き上げた学生もいました。「男の世界」であるロックミュージックに入っていた若い「女の子」たちの「ライオットガールズ」と呼ばれるムーブメントを取り上げた学生は、卒業してから卒業論文を本として出版しました。学生たちの若い感性とそれ故に鋭い嗅覚から学ぶことも多いです。

学生たちの若い感性に囲まれて



三田 敏雄（みた・としお）

1946年、愛知県生まれ。1969年、成蹊大学工学部機械工学科を卒業し、中部電力株式会社に入社。以来、一貫して火力畑を歩む。1999年、支配人火力センター川越火力発電所所長、2001年、同火力センター所長、2003年、取締役東京支社長、2005年、常務取締役販売本部長などを経て、2006年、代表取締役社長に就任。

の大きさです。今でも社員たちによく語るのは「コンピュータが発達したからといって、それに慢心してはいけない。自然はもつと大きなものであり、我々はそのごく一部しか知り得ていない。たとえば、川に石を投げ入れた時、どんなに解析技術が進歩しても、そこにどんな波紋が広がるかを完璧に解析することはできない。川底の状態、上流からの流れなど、さまざまな要因が影響しているからだ。自然には、人間の頭では計り知れないものが満ちあふれている。技術者は、そういう自然に対する畏敬の念、真摯な気持ちが必要ではない。それが欠如すると、自然、社会の調和を乱すものを設計することにもつながりかねない」ということです。つまり、技術者には自然への謙虚さが大切であり、それが安全を遵守する基盤になる。とくに原子力などを扱う当社の社員は肝に銘じておかなければならないと考えています。こうした感覚、信念は、大学での研究を通して感得したものです。

また、アメフト部の活動も貴重な財産になっています。合宿の練習はともハードで、苦しい思いもしましたが、スケジュールをこなしていけば、必ず終わりがきます。その経験を通して、どんなに辛くても、それが一生続くわけではない。ならば、その終わりの時期がくるまでは精いっぱい努力しよう。苦しい時ほど、逃げないで、むしろ積極的に立ち向かおう。そんな姿勢が身についたように思います。

ベストよりも上を目指す気持ちを大切に

―仕事の上でポリシーにされていることはありますか。

三田 「おかげさま」という感謝の気持ちを大切にしています。人生は何事も一人のできるわけではなく、あらゆるものの影響、おかげで成り立っています。会社があるのも、お客さま、地域社会、ステークホルダー、そして社員のおかげです。そんな気持ちを大切にしながら、仕事をしていきたいですね。

もう一つ、座右の銘にしているのが「ベター・ザン・ベスト（超最良）」という言葉です。技術も組織も、現状を最善と捉えて、満足した瞬間に停滞します。もつといいものがあるはずだと、より上を目指す熱い心がなければ、進歩は生まれません。自分や組織に悪いところはないか、常に省みて、改革意識を持ち続けることが重要です。そして、私はベストよりも上の状態は無限にあるという世界観も抱えています。というより、あらゆるものが無限と言ってもいいかもしれません。宇宙には果てがないし、逆に極小の世界も、物質の最小単位はクォークとされていますが、それは単に人間が認識できるのがそこまでだということにすぎない。おそらくクォークを構成するものがあるはずだという意識を持っています。同様に、仕事においても、現状がベスト、限界だと思ふのは、自分が認識できる範囲

世界に影響を与えたイギリス工場法

私自身の研究テーマはイギリス工場法の歴史をジェンダーの視点から分析するというものです。工場法は女性や子ども労働条件を改善するための法律ですので、女性に恩恵も与えましたが、「女性には自ら適性な労働時間がどの程度か判断する能力がない」という前提に基づいていたので、労働市場における女性の地位を低める役割も果たしました。同時に、法律に頼らなくても自らの労働条件を使用者との交渉によって決定できるとされ「保護」の対象外となった男性労働者は、時に危険産業で健康を害すなど、健康を犠牲にしなければならなかったもありました。植民地における工場法の問題やイギリス工場法が日本の工場法に与えた影響など、最近はずしづつテーマを広げています。



マンチェスター大学でPh.Dを取得

実は、十年近くイギリスの大学には「パートタイム」という制度があり、「フルタイム」の学生が一年かかる課程を2年かけて勉強します。授業料も半分になります。今は単著の出版に向けて準備中です。

スマトラ沖地震をきっかけに

近年は、学生たちと一緒にさまざまな社会貢献活動に参加する機会が増えました。契機となったのは、ゼミの卒業生の倉典暁さんが日本語教師としてスリランカに赴任中にスマトラ沖地震と津波

での話です。必ずもつと先があり、それに向けて前進する心を持つことが大切だと考えています。

―今後の成蹊大学に期待されることをお聞かせください。

三田 成蹊大学の魅力は、自然に恵まれたキャンパスと、アットホームな雰囲気にあると思います。ある統計によると、ノーベル賞学者のような天才が育つのは、都市の中心部のビル群ではなく、自然にあふれた豊かなのんびりとした環境なのだそうです。成蹊大学にはそんな環境がありますから、それを堅持してほしいですね。

―最後に、成蹊学園の後輩たちに向けて、メッセージをお願いします。

三田 大学時代は、人生を築くために最も重要な時期ですから、自分の人生を真剣に考える機会を持つてほしいと思います。自分はどう生きたいのか。学問研究を通して、あるいはクラブ活動、恩師や友人との交流などを通して、見つめることが肝心です。私も、父が亡くなったことを契機に、大学に進学するかどうかも含めて、深く悩みました。その時に、明確な解答が得られたわけではありませんが、考えたという行為自体が、振り返ってみると、大きな転換期になったように思います。そんな貴重な学生時代を大切にしてほしいと願っています。



学生、留学生たちとの国際交流実践授業

大学の近況

学生相談室から

スクールカウンセラーが小中高に定着してきましたが(※)、成蹊大学にもカウンセラーがおり、学生相談室で大学生の充実した大学生活を支援するために、学生の心理的な問題の解決や、全学生の心の健康の促進支援、人間的な成長発達と良好な人間関係の支援などを行っています。

相談室という、とかく特別な問題や精神的な疾患を持つ学生が利用していると思われがちですが、実際は大学時代だからこそ当然生じる、自立した大人になっていくための課題を抱えた多くの学生が訪れています。

二〇〇七年度の相談件数は、延べ二千四十七件でした。学部別の内訳(図1)にあるとおり、学部によらず来室していることがわかります。相談内容別の内訳(図2)では、対人関係や自身の健康、学業・進路に関する相談などが多くみられます。

対人関係については、周囲の反応や評価を非常に気にしているという印象を受けます。青年期の心理の特徴ともいえるのですが、他者からよく見られたいあまりに、過剰に無理をし続けていたら、こころは悲鳴を上げてしまうでしょう。自身の健康では、社会問題にもなっている「うつ」も含まれています。大学生にも多くみられ、近年ではそのタイプの多様さも指摘されていますので、専門家としての視点がより必要となります。修学については、まず入学した後の大学生活への適応が問題となります。高校までとは異なり、より主体的な学業への取り組みが求められるなかで、(たが)がはずれてしまったり、自身の興味・関心がゆらいでしまった学生と出会います。進路では、就職状況は好調であるものの、社会のなかで自分が何をし、どう生きていくのかというテーマは不変であり、期待と不安のなかにあるのも当然でしょう。

さて、ここ数年ご家族の方からの相談は増加傾向にあります。今の大学生は、子どもの頃に地域や学校の安全が保障できない時代を過ごしており、その結果、親・家族は、わが子を自ら守るしかな

オープンキャンパス日程

今年度のオープンキャンパスは、左記のとおり開催されます。当日は、在学生によるキャンパス見学ツアーや体験講義、成蹊大学ガイダンスなど、成蹊をより深く知るためのイベントが多数行われます。教職員や在学生と直接ふれあうチャンスも多く、成蹊の魅力と雰囲気を感じることができる内容となっています。高校生をおもな対象としていますが、どなたでも参加いただけます。

- 第一回 八月二日(土)・三日(日)
 - 第二回 九月十四日(日)・十五日(祝)
 - 第三回 十一月二十三日(日) (大学祭期間中)
- 各回とも十時より受付開始で、十六時半受付終了予定です。事前の申し込みは不要です。時間内の入退場は自由です。

理工学部 一日体験科学教室

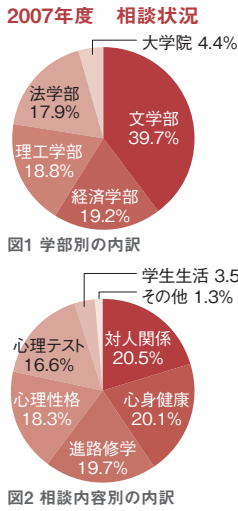
理工学部の三学科では、科学技術に関心を持ち、好奇心が旺盛な高校生を対象に、本学で行われている研究の一端を紹介しながら、さらなる科学に対する興味を持っていただくため、「一日体験科学教室」を次の日程で開催します。最新の科学と技術に触れてみたい方はぜひご参加ください。

- 物質生命理工学科 八月三日(日)
 - 情報科学科 六月二十二日(日)【終了】
七月二十日(日)・八月三日(日)
 - エレクトロメカニクス学科 七月二十六日(土)
- 詳細については左記大学ホームページをご覧ください。
- ホームページアドレス
<http://www.seikei.ac.jp/university/rikou/event/index.html>

いと、心を碎かれてきたのであろうことが推察できます。確かに何かと物騒な世の中ですし、親の心配のタネは尽きることはありません。一方、大学生が位置する青年期は、親からの自立が発達課題のひとつですから、親との心理的な距離をとることが大切になります。このあたりの折り合いについて、親としての子へのつきあい方など、ご家族の皆さまと話し合っていければと考えています。どうぞ安心してご利用ください。

(学生相談室長代行 岩田淳子)

※…成蹊学園では小学校児童・中学校生徒に対しては健康支援センターの臨床心理士がその役割を担っています。



学生相談室の利用について

- 開室日時
月曜日・金曜日・午前10時から午後6時
- スタッフ
専門のカウンセラー(臨床心理士)4名と
コンサルティングスタッフが相談に応じます。
- 相談するには
直接来室しても予約をしてからでも結構です。
電話で相談することもできます。
- 秘密厳守・無料です。
- 電話
〇四二一三七一三八〇七(直通)
- ホームページアドレス
<http://www.seikei.ac.jp/university/soudan/ogcps.html>

四大学運動競技大会

伝統ある年間行事のひとつ、成蹊・武蔵・成城・学習院の四大学で競い合う四大学運動競技大会(通称/四大戦)が、十月二十四日から二十六日まで、武蔵大学で開催されます。

私立の旧制高等学校の流れをくむ成蹊・武蔵・成城・学習院大学は、同じような学生層、相似した環境であり、大学創設当初から経営や教育などの問題について相互に協力し情報交換をしていました。そして当時の四大学長四人による新宿中村屋二階での話し合いで生まれたのが、この四大学運動競技大会だといわれています。昭和二十五年に第一回大会が行われ、その後一度も絶えることなく半世紀以上の間、続けられてきました。

今年度正式種目については、年間をとおして競技が行われており、体育会スキー部女子二年連続優勝、男子二位という結果を出しています。優勝杯を学内に飾れるよう、今後の活躍にも期待したいと思います。

学位授与式

三月十九日、二〇〇七年度学位授与式が行われ、当日は色とりどりの袴姿で学内が彩られました。教職員、保護者、後輩たちの見守るなか、卒業生(千六百七十八名)・修了生(百五十九名)が本学を巣立ちました。



入学式

四月三日、快晴のもと二〇〇八年度入学式が行われました。二千百九十六名の新たな仲間を迎え入れた学内は、新入生勧誘に励む在学生の声で賑わい、スーツ姿の新入生たちは、戸惑いながらも懸命に先輩たちの話に耳を傾けていました。



学長と語る会

〆ピカピカの新入生と一緒にランチ編〆

四月二十五日、二〇〇八年度学部新入生を迎えて「学長と語る会」が開催されました。



今回の学長と語る会では、サークル・クラブ活動など課外活動に参加する意義や、高校生活と大学生活のギャップなどについて話し合われ、学長からは「四学部ワンキャンパスの環境を生かして、さまざまな人と交流し、社会的な力を身につけてほしい」とのメッセージが送られました。

SEIKEI Formula Team

～『第6回全日本学生フォーミュラ大会』へ向けて～

「全日本学生フォーミュラ大会」とは自動車技術会主催の自動車レースで、学生が自ら設計製作した小型フォーミュラカーで走行性能などを競います。特徴的なのは速い遅いだけではなく、車体のコンセプト・設計手法・解析技術・燃費といった技術開発能力に加え、参加チームを企業に見立てて広報・マーケティング・製造コストなどの経営管理能力も評価される点です。

成蹊大学理工学部エレクトロメカニクス学科では、学生主導プロジェクトとして“SEIKEI Formula Team”を2006年に発足させました。英文表記のチーム名には世界大会への参加を目指す野心が込められています。3次元CADやシミュレーション技術を駆使して設計製作した車体で初めて臨んだ昨年度大会では、耐久レースを完走して新人賞第3位を獲得することができました。自動車開発製造には実に多くの学問が関連するため、さまざまな知識や技術を取り入れる必要があります。そこで、他学科他学部の学生たちにも協力を呼びかけるべく今年度からはサークルとして活動を開始する予定で、学科・学部の枠を越えた教育・研究効果が期待されます。

現在、9月に開催される今年度大会に向けて車体を設計製作中で、活動状況や大会結果は下記Webページでご覧いただけます。なお、実際の企業活動を学ブ一貫として、車体製作やチーム運営に必要な費用の一部は学生たちが企業から寄付を募って調達しています。ご支援いただいた企業・個人のお名前やロゴなどを車両・ドライバー・ヘルメットへ掲載したり、本チームホームページにおいて寄付会社へのリンクを張ったりしていますので、ご興味ございましたら下記チームホームページをご覧ください。



成蹊大学理工学部エレクトロメカニクス学科教授 小川隆申

◆ SEIKEI Formula Team <http://www.me.seikei.ac.jp/formula/> ◆

中学・高等学校の近況

高校生ごみ意識ミーティング

ゴミ減量に取り組む武蔵野市では「高校生ごみ意識ミーティング」を実施しています。高校生生徒部で、市の要請を受けて生徒に呼びかけたところ、五名の生徒が申し出ました。市内の各高校から参加した生徒たちとの、一月から三月にかけて月一回のミーティングおよびリサイクル施設見学会の様子を紹介します。

参加者からの報告

武蔵野市は現在ゴミ減量に積極的に取り組んでいます。その一環として「高校生ごみ意識ミーティング」というものが行われていたのをご存知でしょうか。そのミーティングの締めにあたるバス見学会が行われたのは、三月の満開の桜が綺麗なよく晴れた日でした。まず市役所近くの団地のゴミ収集体験を行い、その後リサイクルされるプラスチックの行方を順番に辿っていくという内容でした。



ゴミ収集体験を終えた私たちは、リサイクル中間施設へ向かい、そこで分別されていないごみを手作業で分ける様子を見学しました。当日は少し肌寒い気温でありながら、作業場は鼻を突く臭いがしており、夏場の大変さが容易に想像できました。そして新たに発泡スチロールのリサイクルは非常にコストがかかるということ、リサイクルには環境に良いというメリットだけでなくさまざまなデメリットもあることを知りました。この後、リサイクル最終施設へ向かうバスの中で

はゴミに関する熱い討論が繰り広げられました。ミーティングに参加することで私たち高校生の中でも、よりリアルな問題としてゴミ問題を考えるようになり、市の職員の方も感心するような鋭い意見が飛び交いました。

最終施設では、さまざまな工夫がされた機械を使い、長い工程を経てようやく再商品化設備へと送られていきます。工場の土地の中はちよつとした町のように道路はもちろん線路まで轢いてあり、漫画やゲームに登場しそうな工場が並びます。自分たちがリサイクルに出したものがちゃんと製品に近づいていく様子は何だか嬉しく、リサイクルに対し前向きな気持ちになりました。

ゴミの現状を見たことで確実にゴミに対する認識が変わりました。ゴミ専門の委員会のある学校に比べ成蹊は分別も甘く、生徒のゴミに対する関心も低いように思います。私たちの身近な問題であるゴミ問題。もっと大きな問題になる前に今から意識していくことが大切なのではないでしょうか。

三年 中鉢 彩・横田香葉子

吉祥寺サンロードに彩りを

春休み、高校美術部が吉祥寺サンロードにあるビルのシャッターに、落書き防止のために絵を描きました。依頼主は卒業生の保護者の方で、作業中もいろいろお世話になりました。



デザインを考えた二年生の女子部員の一言を紹介します。

「無機質なシャッターに自然をテーマにしてさわやかな彩りを加えました。地域の活性化に繋がるようなお手伝いが微力ながらも私たちにできたことは非常に光栄に思います」

入学式

四月七日、中学校は十時から高等学校は十三時半からそれぞれの入学式が厳かに執り行われました。中学校は国際学級の編入者も含めて二百七十二名、高等学校は再入学者一名を含む三百二十九名です。新入生を代表して、有馬千香子さんと松本早紀子さんが力強く入学の言葉を述べてくれました。

新入生歓迎会

四月十一日、中学校、高等学校でそれぞれ新入生歓迎会が行われました。

中学校は大教室と体育館で行われました。準備は体育館バート、在校生バート、大教室バート、プロボスバートの四つのバートに分かれて行われましたが、そのほとんどは有志のメンバーでした。大教室では実行委員による学校生活（ルールやマナーなど）の寸劇を一年生の担任も全員参加し行いました。第一体育館で行われたクラブ紹介では、途中で音響設備の故障というアクシデントが起きてしまいましたが自然に手拍子で起き無事に進行していききました。

高等学校は大教室で生徒会役員制作のビデオを上映しながら、学校生活とルール、クラブ紹介があり、壇上に上がった各担任からユーモアを交えた自己紹介が行われました。続いて生徒によるクラブ紹介が行われ、ビデオで自分たちの活動をアピールしたり、舞台で迫真の演技を見せ、日頃の活動を一年生に伝えていきました。

中学校遠足と高等学校体育大会

中学校の遠足は雨で一週間延期になりましたが、五月九日、涼しい中、さわやかな遠足を実施することができました。一・二年生は夏の学校の、三年生は修学旅行の予行演習的要素を持つ遠足です。一年生は高尾山登山と自然観察を通じて、自然に親しみ、仲間作りを行うことが目的です。氷川神社に集合し稲荷山コースで山頂を目指しました。二年生は陣馬の山と自然を楽しむとともに、夏の学校に向けて集団登山に慣れおくことが目的です。中央本線の藤野駅に集合し、陣馬登山口から一の尾根を経由し、山頂で昼食をとりました。下山コースは明王峠、与瀬神社を回って相模湖駅で解散しました。三年生は修学旅行での班別行動を想定して班ごとに分かれ、上野公園大噴水前広場を出発しました。東京国立博物館を観覧後、上野から電車で両国へ移動し、江戸東京博物館を見学しました。生徒にとっては江戸の歴史・文化に接すること



で、京都・奈良との文化の違いを学習する手ばかりを得たことと思います。

この日、高等学校では体育大会を実施しました。バレーボール、サッカー、ソフトボール、ドッジボール、キックベース、卓球などの競技がクラス対抗で行われました。一年生は入学後初めて、二年生にとってもクラス替え後初めての行事です。朝は涼しかったものの生徒の熱のこもったプレーとともに気温も上昇しましたが、大いに親睦を深めたことと思います。

中学校見学会（講演会）と高等学校遠足

中学校では中間試験が終わった翌日の五月二十九日、三十日の二日間に見学会を行いました。一年生は二十九日に大学四号館ホールにて、情報教育講演会を。ネット社会と子どもたち協議会。の佐藤綾子先生をお招きし、保護者もあわせてお話を伺いました。三十日は「能」と「狂言」を十四世喜多六平太記念能楽堂で鑑賞しました。二年生は二十九日に大学四号館ホールにて心理カウンセラーの林恭弘先生から「コミュニケーションと自己分析」という演目で講演していただきました。三十日は大教室で卒業生の東儀秀樹氏による講演会を雅楽の紹介・演奏と後輩へのメッセージも含めて行いました。



中間試験が終わった翌日の五月三十日、高等学校の遠足が行われました。この遠足では先に行われた体育大会同様、クラスの親睦を図ることを大きな目的としています。高等学校ではク

運動部・文化部の活躍

●中学硬式庭球部

第34回東京都中学校テニス選手権大会に出場
(個人)

男子シングルス

ベスト4 千田航平

男子ダブルス

優勝 千田航平・溝間奎輔

ベスト4 富山竜帆・志村太和

女子シングルス

ベスト4 池田玲

女子ダブルス

ベスト4 池田玲・生方沙紀

●中学ソフトテニス部 男子

多摩東部大会（5月6日）に出場

団体戦第3位（7月23日の都大会に出場決定）

小学校の近況

平成二十年度入学式

四月五日に入学式を行いました。
今年の入学者は、新一年生百十二名、国際学級新四年生十二名の計百二十四名でした。
新入生も入学して三か月、遠足や運動会などの行事をとおして成蹊小学校の生活にすっかり溶け込んでいます。一人ひとりが、健やかにそして個性豊かに成長してほしいと願っています。



小学校教員全員での普通救命講習

小学校では、学期初めの教員集合の場を利用し、安全対策の一環としての防犯訓練や救急救命講習などを行っています。

今年度は、四月四日に、武蔵野消防署と東京救急協会のお世話で、応急救護講習を行いました。今回の講習は、心肺蘇生・AEDによる除細動・気道異物除去・止血法・救急車利用等を含めた三時間の本格的な普通救命講習でした。三十七名の専任教員全員と美術科の講師が参加し、救急救命の知見を深める良い機会となりました。

文部科学大臣表彰・創意工夫・功労学校賞

三年生以上の子どもたちの学習として理科カリキュラムに位置づけている「発明工夫」の作品が、第五十一回東京都児童生徒発明くふう展や、第六十六回全日本学生児童発明くふう展で多くの賞

を頂戴したことを前号までにお知らせしました。

これに続いて四月十六日には、文部科学大臣より創意工夫功労学校賞の表彰を受けました。

平成二十年度の功労学校賞は全国で十六校。小学校はこのうち十一校でした。

東京都では成蹊小学校の一角が表彰されました。成蹊小学校は、平成十四年にも功労学校賞の表彰を受けましたが、こうした子どもたちの創造的な活動に対して公的な評価を得ることは、今後の学習の励みになるものと喜んでいます。



初めての試み「学校PTA」

小学校には、個人懇談や学級・学年PTAなど担任と保護者が意見交換を行う場がありますが、学校全体の取り組みについて説明をし、意見交換をする場は設けていませんでした。これは、子どもたちが実際に活動する場面（運動会・文化祭・全校音楽会・全校授業参観など）を直にご覧いただいて、教育活動の全貌を理解していただくという小学校の伝統的な構えがあったことも理由の一つです。

今年は、昨年度PTA役員の皆さまからのご意見を参考にして、初めて四月十六日のPTA総会に先立って「学校PTA」を行いました。

学校長からは小学校の現状についての説明や創立百周年記念募金へのご協力に対するお礼、また、教頭からは新校舎の披露を兼ねた全校授業参観のご案内、生活指導主任からは通学マナー指導についての説明と協力依頼など、約一時間の内容となりました。

保護者の皆さまからは、小学校保護者による通学マナー指導のあり方や小中高大を含めた学園全体としての通学マナー向上についてのご意見をいただき、安全対策についての保護者の皆さまの関心の高さを再確認する貴重な場となりました。

春の遠足

小学校では、春と秋の二回遠足を行います。春の遠足は、六年生が一年生のお世話をする歓迎遠足と、学年別の遠足です。そして二年生から五年生までの遠足は、夏の学校を前にした「体力診断」にもなっています。

四月二十五日は前日までの雨もあがり、からりと晴れた絶好のコンディションでした。当日の遠足の様子は小学校ホームページでも紹介しています。



- 一年生と六年生 井の頭自然文化園
- 二年生 都立野川公園
- 三年生 高尾山
- 四年生 高水三山
- 五年生 御岳山・大塚山

運動会「走り出せ希望を胸に 最後まで」

五月十七日の運動会は、「降らず・照らず・吹かず」の三拍子揃ったコンディションで実施することができました。一昨年は雨で月曜日に実施、昨年は当日開始直前の雨で翌日実施と、天候に恵まれないう運動会が続いていました。今年も、降雨と低温のために予行練習を中止して本番を迎えることに



されてきました。今年度こそ、全学年が晴天の下で安全第一の夏の学校を実施できることを期待しています。

- 一年 箱根（七月十六日～十八日）
- 二年 箱根（六月二日～五日）
- 三年 箱根（七月二十日～二十四日）
- 四年 南房総白浜（六月一日～五日）
- 五年 裏磐梯高原（七月十八日～二十三日）
- 六年 南房総岩井（七月十八日～二十三日）

全学年の夏の学校に、蹊医会のご協力で医師・看護師が同行します。また、六年夏の学校水泳訓練にはOB師範団が同行します。このように、今年も成蹊に繋がる数多くのご支援を得て夏の学校が開設されることを心から感謝しています。



なっていました。しかしながら、ポプラグラウンドでの子どもたちの演技や競技は、練習不足の心配を吹き飛ばす見事さでした。

今年の運動会には、二つの特徴がありました。一つは、すべての学年が四学級編成となり、二学級ずつが紅白に分かれるかたちで競技を行えたことです。三学級時代は、学級を二分した紅白対抗でしたし、学級数が違う学年が混在した移行期の紅白対抗はさらに変則的でした。



夏の学校

今年度の夏の学校は、六月初旬の四年生と二年生の夏の学校からスタートしました。先述の運動会ばかりでなく、夏の学校もお天気に悩ま

運動会プログラム

開始時刻 8時30分

開会式

号砲、ファンファーレ、入場行進、開会宣言、優勝旗返還（昨年度優勝白組）、学校長の話、はじめの言葉（1年生代表）、選手宣誓（赤白応援団長）

午前の部（☆…得点種目 ★…体育発表）

合同体操	………	全校生
応援合戦	………	
☆ 徒競走80メートル	………	4年生
☆ フルかいてん	………	2年生
☆ 徒競走100メートル	………	5年生
☆ 紅白みだれ玉	………	1年生
☆ つなひき	………	3・4年生
☆ かけっこ50メートル	………	2年生
☆ つなひき	………	1年生・教職員
☆ 徒競走100メートル	………	6年生
★ 組体操「挑戦」	………	3年生
☆ かけっこ50メートル	………	1年生
★ 踊り「ソーラン 08」	………	4年生
☆ 騎馬戦	………	5・6年生
☆ 低学年リレー	………	1・2・3年生

午後の部（☆…得点種目 ★…体育発表）

赤いねずみと白いねずみ	………	PTA
☆ ビエロ競走	………	2年生
☆ 徒競走80メートル	………	3年生
★ リズムなわとび「銀河鉄道999」	………	5年生
☆ おつとあぶない 08	………	1年生
☆ 運だめし! どれが自分の足だっけ? …	………	4年生
★ 踊り「うわじまガイヤ」	………	2年生
☆ ひろってはこんでいそげいそげ! ……	………	3年生
★ 組体操「気流」	………	6年生
☆ 高学年リレー	………	4・5・6年生
☆ 大玉おくり	………	全校生

閉会式

成績発表（赤1008点、白863点）
優勝旗授与、学校長の話、おわりの言葉（桃の会委員長）、校歌、閉会宣言

終了時刻 15時20分

第1表 【消費収支計算書】(要約)

2007 (平成19) 年4月1日から2008 (平成20) 年3月31日 まで (単位: 百万円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	11,233	11,129	△ 104
手数料	589	767	178
寄付金	456	464	8
補助金	1,634	1,694	60
(国庫補助金)	(957)	(993)	(36)
(地方公共団体補助金)	(673)	(699)	(26)
(その他補助金)	(4)	(2)	(△ 2)
資産運用収入	406	441	35
資産売却差額	0	139	139
事業収入	241	299	58
雑収入	365	331	△ 34
帰属収入合計	14,924	15,264	340
基本金組入額合計	△ 2,772	△ 2,038	734
消費収入の部合計	12,152	13,226	1,074

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	8,031	7,711	△ 320
教育研究経費	4,654	4,607	△ 47
管理経費	955	918	△ 37
借入金等利息	48	48	0
資産処分差額	478	796	318
徴収不能引当金繰入額	11	16	5
徴収不能額	0	12	12
〔予備費〕	(49)		
	181		△ 181

消費支出の部合計	14,358	14,108	△ 250
当年度消費収支差額	△ 2,206	△ 882	
前年度繰越消費収支差額	△ 1,740	△ 1,740	
次年度繰越消費収支差額	△ 3,946	△ 2,622	

第3表 【貸借対照表】(要約)

2008 (平成20) 年3月31日 (単位: 百万円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	76,451	76,370	81
有形固定資産	44,546	43,561	985
土地	6,237	6,237	0
建物・構築物	29,986	30,388	△ 402
教育研究用・その他の機器備品	1,592	1,604	△ 12
図書	4,827	4,666	161
その他	2	3	△ 1
建設仮勘定	1,902	663	1,239
その他の固定資産	31,905	32,809	△ 904
有価証券	4,744	6,857	△ 2,113
指定包括信託	2,060	0	2,060
特定資産	24,730	25,590	△ 860
その他	371	362	9
流動資産	11,318	10,989	329
現金預金	10,094	9,795	299
有価証券	699	499	200
その他	525	695	△ 170
資産の部合計	87,769	87,359	410

第2表 【資金収支計算書】(要約)

2007 (平成19) 年4月1日から2008 (平成20) 年3月31日まで (単位: 百万円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	11,233	11,129	△ 104
手数料収入	589	767	178
寄付金収入	456	445	△ 11
補助金収入	1,634	1,694	60
(国庫補助金収入)	(957)	(993)	(36)
(地方公共団体補助金収入)	(673)	(699)	(26)
(その他補助金収入)	(4)	(2)	(△ 2)
資産運用収入	406	441	35
資産売却収入	2,013	3,710	1,697
事業収入	241	299	58
雑収入	365	331	△ 34
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,032	2,642	610
その他の収入	6,058	5,898	△ 160
資金収入調整勘定	△ 2,893	△ 2,922	△ 29
前年度繰越支払資金	9,795	9,795	
収入の部合計	31,929	34,229	2,300

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	8,386	7,999	△ 387
教育研究経費支出	2,732	2,667	△ 65
管理経費支出	779	741	△ 38
借入金等利息支出	48	48	0
借入金等返済支出	172	173	1
施設関係支出	3,494	3,101	△ 393
設備関係支出	493	493	0
資産運用支出	6,579	8,316	1,737
その他の支出	1,185	1,215	30
〔予備費〕	167		△ 167
資金支出調整勘定	△ 560	△ 618	△ 58
次年度繰越支払資金	8,454	10,094	1,640
支出の部合計	31,929	34,229	2,300

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	5,666	6,170	△ 504
長期借入金	689	863	△ 174
長期未払金	0	42	△ 42
退職給与引当金	4,977	5,265	△ 288
流動負債	3,595	3,837	△ 242
前受金	2,642	2,420	222
その他	953	1,417	△ 464
負債の部合計	9,261	10,007	△ 746

基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	69,357	66,574	2,783
第2号基本金	2,500	3,400	△ 900
第3号基本金	8,189	8,034	155
第4号基本金	1,084	1,084	0
基本金の部合計	81,130	79,092	2,038

消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
次年度繰越消費収支差額	△ 2,622	△ 1,740	△ 882
消費収支差額の部合計	△ 2,622	△ 1,740	△ 882

科 目			
本年度末	前年度末	増 減	
負債の部、基本金の部 および消費収支差額の部合計	87,769	87,359	410

2007年度 決算および事業報告について

学校法人成蹊学園の2007年度決算は、学園監事および公認会計士の監査を受け、5月30日の理事会・評議員会において、確定いたしました。2007年度の消費収支のバランスを表す消費収支計算書（第1表）についての概要は、次のとおりです。

納付金、手数料、補助金、資産運用収入などの本学園に帰属する「帰属収入」は合計で152億64百万円となりました。また、「基本金組入額」の合計は20億38百万円となり、うち第1号基本金は、2007年度に建設・購入などにより取得した、建物、建設仮勘定、機器備品、図書等の資産分として9億83百万円、第2号基本金は将来の校舎取得などを目的とした施設設備整備資金の積上げに係る計画組入分の9億円、第3号基本金は三菱留学生奨学金基金などの積上げ分の1億55百万円となっています。

帰属収入からこの基本金組入額を控除した額が、消費（支出）に充当できる「消費収入」で、その額は132億26百万円となりました。

一方、教職員の人件費、教育研究・管理経費（減価償却額を含む）、借入金利息などの「消費支出」の合計は、141億8百万円となり、この結果、消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は、8億82百万円の消費支出超過となりました。

消費収支計算書の主な増加・減少要因などは次のとおりです。

- 納付金は帰属収入に占める最大の収入要因であり、その割合は約73%となりました。
- 手数料の増加は、大学の新方式入試（全学部統一入学試験・E方式）の実施や、中学校入試を2回実施したことなどにより、志願者数が増加したことによります。
- 教育研究経費は光熱水費などの節減等により減少しました。
- 当年度の収支差額は22億6百万円を見込んでおりましたが、帰属収入が3億40百万円増加したこと、消費支出が2億50百万円減少したこと、及び基本金組入額が7億34百万円減少したことから、8億82百万円の消費支出超過にとどまりました。

第2表の資金収支計算書は、教育研究など学園全体の諸活動に伴う資金の動きが全て網羅されています。総額は342億29百万円となり、次年度繰越支払資金は100億94百万円となりました。

2007年度に実施した主な事業は次のとおりです。

創立100周年記念事業

- 2006年7月に着工された新中学校ホームルーム棟の建築は順調に工事が進み、2007年7月に竣工、2学期から使用を開始しました。1階には職員室ならびに生徒ホールがあります。2階から4階は学年毎のホームルームになっており、廊下の中央はフリースペースとなっております。ホームルームには52インチの大型ディスプレイが設置されパソコンを使った授業で利用されています。

新中学校ホームルーム棟は、中高中央館の南側に竣工し、中高中央館と各階ごとに関連するための改修工事を実施いたしました。また、従来中高中央館にあった生徒ホールを新中学校ホームルーム棟の1階に設置し、中高中央館では、その空いたスペースに保健室と生徒や父母との面談用の小室を設置しました。

なお、今後中高中央館の北側には現在建築中の新高校ホームルーム棟が接続することとなり、生徒や教職員あるいは来校者の利便性は格段に向上すると思われます。

- 1962年に竣工し多くの卒業生が学んだ旧高校ホームルーム棟が2007年9月に取り壊され、事前準備工事を経て、2007年12月に着工された新高校ホームルーム棟の建築は2008年12月の竣工を目指し順調に工事が進んでおり、2008年度の3学期から使用される予定です。

- 1957年に竣工した小学校理科館と1970年に竣工した小学校本館は、2007年6月に取り壊しが完了し、2007年7月、その跡地に小学校新校舎の建築工事が着工し、2008年7月の竣工を目指して順調に工事が進んでおり、2008年度の2学期から使用される予定です。また、2007年度は再開発の一環としてうさぎ小屋と温室を設置し、小学校中央館の1・2階を改修いたしました。

研究活動の高度化

文部科学省の補助金を受けて推進している、大学院工学研究科のハイテク・リサーチ・センター事業、ならびに大学の現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム（事業名称：進化する教養教育と国際化新人材の育成）は、ともに着実な研究活動が進められ、その一部は授業で活用されております。

学習・教育支援体制の整備

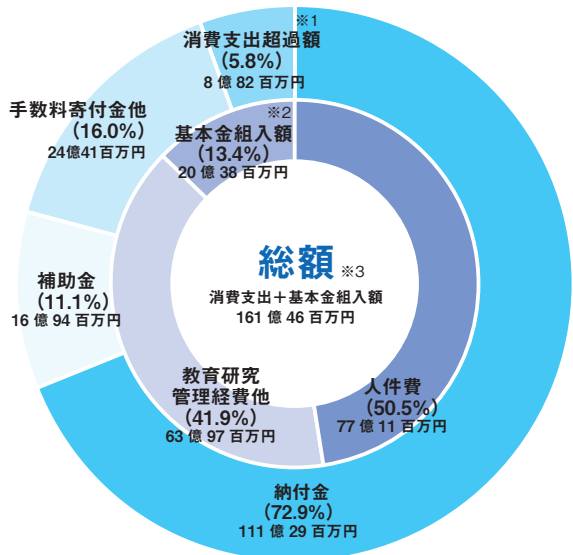
- 従来大学西1号館の4階にあったアジア太平洋研究センターが、大学1号館の整備に伴い移転したため、4階部分を研究室として整備いたしました。
- コンピュータを使用した授業の増加に応えるため、コンピュータ画像を出力するプロジェクター設備を大学8号館の小・中規模の一般教室に設置いたしました。
- 2006年度から大学の4学部授業科目のシラバスが、Webによるシラバスデータベースシステムで編集・閲覧できるようになりましたが、2007年度は、教員の入力環境の改善などさらに機能を高めるためのプログラム改修を実施いたしました。
- 大学8号館のワイヤレスマイクシステムを混信のない赤外線を利用したシステムに入れ替え、授業実施にかかる環境を整備しました。
- 第58回四大学運動競技大会が本学を会場に開催しました。
- 従来中高で利用していた図書システムを大学情報図書館のシステムに統合しました。データが統合されることによって中学高等学校の生徒・教職員にとって資料を検索しやすくなり、今後の教育効果が期待できます。
- 学生会館への出入りに車椅子の利用が可能となるようエレベーターを設置しました。
- 大学テニスコート（1面～3面）を人工芝に改修しました。

その他の事業

- ケンブリッジ大学の学生劇団であるベンブルック劇団が9月に来校し、小学校体育館において「ロミオとジュリエット」を上演しました。学園の児童・生徒・学生のほか保護者や地域の方々も来場しての盛況な開催となりました。また、ケンブリッジ大学の学生と学園の高校生・大学生と一緒に、当日の劇に親しむための事前学習としてワークショップを開催し、親交を深めました。
- 成蹊学園の各校の在校生や卒業生ならびに保護者などの成蹊関係者が出演する成蹊音楽祭を1月に大学4号館ホールで開催いたしました。当日は、第1部で在校生・卒業生・保護者の方々の演奏やコーラス、第2部では小学校から高校までの卒業生でジャズ・トランベッターの市原ひかりさんによるジャズライブが行われ、成蹊関係者のみではなく近隣の皆さまにも音楽会を堪能していただきました。

2007年度消費収支計算書を図で表すと、次のとおりです。

- ※1 2007年度は消費支出超過だったため、各比率の合計が100%を超えます。
- ※2 基本金組入額は、決算書では帰属収入合計から控除することになっていますが、図では支出額に加えて表示しています。
- ※3 総額は、消費支出と基本金組入額を加えた額となっていますが、各科目の構成比率は帰属収入合計（152億64百万円）を100%として表示しています。



第1表【消費収支予算書】(要約)

2008 (平成20) 年4月1日から2009 (平成21) 年3月31日まで (単位: 百万円)

収入の部			
科 目	予算額	前年度予算額	増減
学生生徒等納付金	10,949	11,233	△ 284
手数料	654	589	65
寄付金	424	456	△ 32
補助金	1,570	1,634	△ 64
(国庫補助金)	(888)	(957)	(△ 69)
(地方公共団体補助金)	(678)	(673)	(5)
(その他補助金)	(4)	(0)	(4)
資産運用収入	396	406	△ 10
事業収入	215	241	△ 26
雑収入	410	365	45
帰属収入合計	14,618	14,924	△ 306
基本金組入額合計	△ 2,931	△ 2,772	△ 159
消費収入の部合計	11,687	12,152	△ 465

消費支出の部			
科 目	予算額	前年度予算額	増減
人件費	8,169	8,031	138
教育研究経費	4,664	4,605	59
管理経費	912	955	△ 43
借入金等利息	40	48	△ 8
資産処分差額	11	478	△ 467
徴収不能引当金繰入額	9	11	△ 2
〔予備費〕	230	230	0
消費支出の部合計	14,035	14,358	△ 323
当年度消費収支差額	△ 2,348	△ 2,206	
前年度繰越消費収支差額	△ 3,946	△ 1,740	
次年度繰越消費収支差額	△ 6,294	△ 3,946	

第2表【資金収支予算書】(要約)

2008 (平成20) 年4月1日から2009 (平成21) 年3月31日まで (単位: 百万円)

収入の部			
科 目	予算額	前年度予算額	増減
学生生徒等納付金収入	10,949	11,233	△ 284
手数料収入	654	589	65
寄付金収入	424	456	△ 32
補助金収入	1,570	1,634	△ 64
(国庫補助金収入)	(888)	(957)	(△ 69)
(地方公共団体補助金収入)	(678)	(673)	(5)
(その他補助金収入)	(4)	(0)	(4)
資産運用収入	396	406	△ 10
資産売却収入	699	2,013	△ 1,314
事業収入	215	241	△ 26
雑収入	410	365	45
前受金収入	2,038	2,032	6
その他の収入	6,570	6,058	512
資金収入調整勘定	△ 2,462	△ 2,893	431
前年度繰越支払資金	8,454	9,795	△ 1,341
収入の部合計	29,917	31,929	△ 2,012

支出の部			
科 目	予算額	前年度予算額	増減
人件費支出	8,522	8,386	136
教育研究経費支出	2,807	2,683	124
管理経費支出	764	779	△ 15
借入金等利息支出	40	48	△ 8
借入金等返済支出	172	172	0
施設関係支出	4,042	3,494	548
設備関係支出	623	359	264
資産運用支出	4,569	6,579	△ 2,010
その他の支出	679	1,185	△ 506
〔予備費〕	350	350	0
資金支出調整勘定	△ 504	△ 560	56
次年度繰越支払資金	7,853	8,454	△ 601
支出の部合計	29,917	31,929	△ 2,012

全学部統一入試（E方式・2教科型） 吉祥寺（本学）・横浜・浦和の3会場で実施します。

2008年度入試より新規導入された全学部統一入試（E方式）では、おかげさまで5364名の志願者を獲得することができました。2009年度の全学部統一入試では、さらに受験生への利便性を高め、本学会場のほかに横浜・浦和の新設会場を設置します。試験開始は午後からですので、とくに横浜・浦和会場は新幹線の利用で遠方からの受験もしやすくなります。

大学

E方式（全学部統一入試）：2教科型

学 部	学 科	募集人員	出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表 日
経済学部	経済経営学科	30	1月5日（月）～1月20日（火） 《消印有効》	2月3日（火）	2月9日（月）
法学部	法律学科	20			
	政治学科	10			
文学部	英米文学科	6			
	日本文学科	6			
	国際文化学科	6			
	現代社会学科	6			
理工学部	物質生命理工学科	10			
	情報科学科	10			
	エレクトロメカニクス学科	10			

A方式（一般選抜入試）：3教科型

学 部	学 科	募集人員	出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表 日
経済学部	経済経営学科	地歴公民型	1月5日（月）～1月29日（木） 《消印有効》	2月13日（金）	2月20日（金）
		数学型		45	2月14日（土）
法学部	法律学科	100			
	政治学科	50			
文学部	英米文学科	60			
	日本文学科	43			
	国際文化学科	50			
	現代社会学科	48			
理工学部	物質生命理工学科	40			
	情報科学科	40			
	エレクトロメカニクス学科	40			
			2月11日（水）	2月18日（水）	

C方式（センター試験利用3教科型入試）／S方式（センター試験利用5科目型奨学金入試）

学 部	学 科	募集人員		出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表 日
経済学部	経済経営学科	C方式	S方式	1月5日（月）～1月16日（金） 《消印有効》	1月17日（土） 1月18日（日） [大学入試センター試験日] 本学での2次試験は実施しません。	2月9日（月）
		30	5			
法学部	法律学科	36	4			
		24	2			
文学部	英米文学科	8	2			
	日本文学科	8	2			
	国際文化学科	7	2			
	現代社会学科	8	2			
理工学部	物質生命理工学科	22	3			
	情報科学科	25	3			
	エレクトロメカニクス学科	25	3			

● AO マルデス入試														
学 部	学 科	募 集 人 員		出 願 期 間	一 次 審 査	一次審査 合格発表	二 次 審 査	二次審査 合格発表						
		一 般	特 別											
経済学部	経済経営学科	25	帰国生特別受験 社会人特別受験 外国人特別受験 各学科若干名の 募集となります。	9月24日（水）～ 10月8日（水） 《消印有効》 ただし10月9日（木） は本学で窓口受付を 行います。	10月25日（土）	10月31日（金）	11月8日（土）	11月15日（土）						
法学部	法律学科	6												
	政治学科	4												
文学部	英米文学科	6												
	日本文学科	2												
	国際文化学科	5												
理工学部	現代社会学科	6												
	物質生命理工学科	10												
	情報科学科	10												
	エレクトロメカニクス学科	10												
									審 査		合格発表日			
									11月2日（日）		11月15日（土）			

学 園

成蹊から
お伝えしたいこと

TOPICS

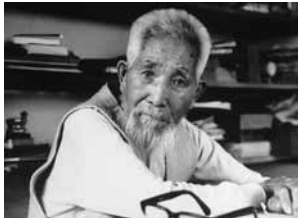
小学校本館竣工

二〇〇八年九月から小学校の新しい校舎が使用開始となります。この新本館は創立一〇〇周年記念事業「新・成蹊創造プラン」の一環として昨年五月に着工をいたしました。が、小学校が二〇〇五年より段階的に進めてきた二十八人・四学級体制と連動し、少人数教育を根幹に置いた教育のさらなる質の向上を目指す拠点となります。自然の涼環境や採光を生かしたつくりとなっており、全学年が収容可能な二十四室の「ホームルーム」、三万冊が収容可能な充実の「図書室」、ガラスブロックパネルの壁を使用した明るい「理科室」が完備されています。その他、二五〇人が収容できる「けやきホール（多目的ホール）」や教室と同じ広さの「ウッドデッキテラス」など、子どもたちが生き生きと学ぶことができる充実した環境が整います。



特別展示〈大久保宗碩（捨蔵）と成蹊大学茶道部五十年〉を開催

「成蹊大学茶道部」は、学園関係者が大久保宗碩先生（本名捨蔵一八八九―一九七六）を師匠として創設した「成蹊茶道会」が前身となっています。一九五八昭和三十三年成蹊高等学校時代より大久保先生を慕って「成蹊茶道会」の活動を手伝っていた学生が中心となり「成蹊大学茶道同好会」を創設、翌年には「成蹊大学茶道部」へと昇格しました。



大久保先生手造りの茶室
「無着庵」書斎にて（昭和43年頃）



成蹊大学茶道同好会発足後、初の公式茶会の「四大学文化祭茶会」（昭和34年6月13-14日）

初代師匠の大久保先生は、一九一八（大正七）年池袋の成蹊中学校（旧制）の舎監・園芸科教員として奉職して以来、中村春二先生の説かれた成蹊教育に感銘を受け、生徒・学生と常に行動をともにしながら人間教育に心血を注がれました。茶道部の部員は、大久保先生の指導による茶の稽古を通じて成蹊精神・成蹊教育にふれました。一九七六昭和五十二年大久保先生はその生涯をまっとうされました。茶道部では初代師匠の指導による学生茶道の精神を継承し、現在も宗偏流正伝庵家元の岩田宗龍先生のもと日々の稽古に励んでいます。今秋創部五十周年を迎えるのを機に、成蹊学園史料館では成蹊大学茶道部との共催による特別展示を開催します。本展示では、大久保先生と成蹊大学茶道部の歩みを書簡・遺墨・写真等の史（資）料を通して展覧します。なお会期中には特別講演会の開催も予定しておりますので、皆さまお誘いあわせのうえご来館ください。

特別展示〈大久保宗碩（捨蔵）と成蹊大学茶道部五十年〉

■会場

成蹊学園史料館一階ロビー

■会期

二〇〇八年十月一日（水）～十二月八日（月）

■開館時間

九時三十分～十六時三十分
（土曜日のみ九時三十分～十一時三十分）

■閉館日

日曜日・祝日・学園の定める休業日

■お問い合わせ

成蹊学園史料館 〇四二二（三七）三九九四
※特別講演会につきましては日程が確定次第、HPなどでお知らせします。
<http://www.seikei.ac.jp/gakuen/hm.html>

～成蹊学園のことをもっと知っていただくために～

新潟・長野 2会場で地域懇談会を開催

該当地域にお住まいの在校生保証人、卒業生へは、別途ご案内状を差し上げます。ぜひお越しください。

新潟会場

（対象地域：新潟県・富山県・石川県）

日程：2008年 9月6日（土）

会場：ホテルサンルート新潟

長野会場

（対象地域：長野県）

日程：2008年10月4日（土）

会場：ホテルサンルート長野

■対象者 …………… 在校生保証人・卒業生・受験生

■式次第（共通）

9:45～ 受付開始 ※卒業生は11:30～受付開始
10:00～11:30 在校生保証人対象個別相談会（懇談会前に実施）
進学相談会（受験生対象）
懇談会
12:00～13:00 懇談会
13:30～15:30 懇親会

お問い合わせ >>> 成蹊学園広報課：0422-37-3517

詳細は決定次第ホームページなどでお知らせします。

<http://www.seikei.ac.jp/gakuen/>